

M A D

ifferent

アート

Curation Practice

Cultural Policy Now in Japan: Fumihiko Sumitomo, Curator, MOT and AIT / Keisuke Ozawa / Roger McDonald

What Makes a Good Museum Today?: Fumio Nanjo, Mori Art Museum, Director

Mapping Curation: Roger McDonald / Keisuke Ozawa

Art, Life and Autonomy: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator

Co-ordination and Communication: Yuko Ozawa

Social Space and Curating: Keisuke Ozawa

History of Curating: Roger McDonald

What Makes a Curator Today?: Yuko Hasegawa, Chief Curator, MOT

Independent Actions in Curating: Mizuki Endo, Freelance Curator and rhythm Chief Director

Knowledge Production and Exhibitions: Keisuke Ozawa / Roger McDonald

Curation Basic

Cultural Policy Now in Japan: Fumihiko Sumitomo, Curator, MOT and AIT / Keisuke Ozawa / Roger McDonald

What Makes a Good Museum Today?: Fumio Nanjo, Mori Art Museum, Director

Mapping Curation: Roger McDonald / Keisuke Ozawa

Art, Life and Autonomy: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator

Co-ordination and Communication: Yuko Ozawa

Social Space and Curating: Keisuke Ozawa

History of Curating: Roger McDonald

What Makes a Curator Today?: Yuko Hasegawa, Chief Curator, MOT

Independent Actions in Curating: Mizuki Endo, Freelance Curator and rhythm Chief Director

Knowledge Production and Exhibitions: Keisuke Ozawa / Roger McDonald

MAD: School of Contemporary Art, Daikanyama, Tokyo

学校

Art + Co-communication

What is Contemporary Art?: Roger McDonald

Installation Art: Roger McDonald

Painting in the 20th century: Kenjiro Hosaka, Curator, The National Museum of Modern Art, Tokyo

Video Art and Visual Culture: Keisuke Ozawa

Architecture Towards Art: Roger McDonald

On the History of Photography: Naoya Hatakeyama, Artist

Cultural and Museum Policy Now in Japan: Mitsuhiro Yoshimoto, NLI Research Institute

Art Projects and Regeneration: Masato Nakamura, Artist and Assistant Professor, Tokyo National University of Fine Arts and Music

Mapping the Art Scene: Keisuke Ozawa

Narrative Making and Non-Narrative Making in Exhibitions: Keisuke Ozawa / Roger McDonald

Public Programs Case Study at MOT: Atsuko Takeuchi, Educator, MOT

Art and Community: Osamu Ikeda, BankART1929, Representative

Artist

Magazine



Arts Initiative Tokyo

Free Blocks – Seminars open to MAD core courses

Text Reading

"Antagonism and Relational Aesthetics" by Claire Bishop: Roger McDonald

"State of Exception" by Giorgio Agamben: Keisuke Ozawa

"The Practice of Everyday Life" by Michel De Certeau: Roger McDonald

"Towards a Japanese Art History" by Shigeo Chiba: Fumihiko Sumitomo, Curator, MOT and AIT / Keisuke Ozawa

Art and Work Experience

The Art World and Working Experience: Funiko Nagayoshi, SCAI THE BATHHOUSE / Mihoko Nishikawa, Assistant Curator, MOT / Makoto Hashimoto, Art Producer and Writer / Tomoko Yanashita, ARTiT Editorial Staff

Artist in Residency Programs and the Question of Community Making: Aki Hoashi, ARCUS Project, Director

Building Working Structures in The Art Field: Yuko Ozawa / Yoko Miyahara, Assistant to The Director, Mori Art Museum

Global Studies

Production of Memory: Keisuke Ozawa

On Creole and Contemporary Art: Keisuke Ozawa

On Public-ness: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator

Okinawa and Representation: Keisuke Ozawa

Art in The Post-city Era: Fram Kitagawa, Echigo Tsumari Art Triennial, General Director

O Beauty, Where Art Thou?

Historical Placement of Beauty: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator

Aesthetics as Dispositive: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator

Aesthetification?: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator

Tactical Curation

The Science of Tactics: Roger McDonald

Curation as Chaos or Random Outputs: Roger McDonald

Reading Urban Spaces: Momoyo Kajimura, Architect, Atelier Bow Wow / Roger McDonald

Curating as Everyday Practice: Roger McDonald

Curating and Environment: Roger McDonald

Workshop for Tactical Art Practice – Framing Codes of the "Public": Hiroharu Mori, Artist

Practical Skills

Writing a Proposal: Yuko Ozawa / Keisuke Ozawa

Photo Documentation Workshop: Keizo Kioku, Photographer

Design and Communication: Masayoshi Kodaira, Art Director

On Fund Raising: Yuko Ozawa

Criticism and Review Writing: Keisuke Ozawa

Art and the Market

On Art Fairs: Keisuke Ozawa

On Commercial Galleries: Sueo Mizuma, Mizuma Art Gallery, Representative

Special Lectures

New Media and Digital Politics: Dominique Chen, Research Fellow of Japan Society for Promotion of Science, Tokyo University

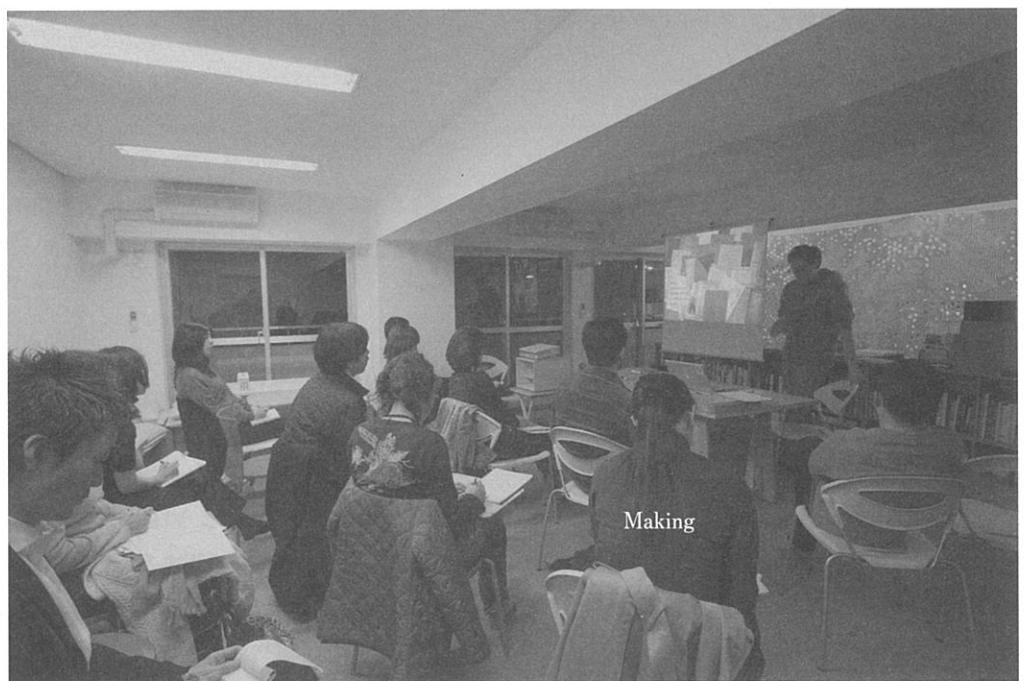
History of Photography and Moving Images: Atsushi Sugita, Art Critic / Assistant Professor, Joshibi University of Art and Design and Director of art & river bank, an alternative space in Tokyo

Architecture and the Art Museum: Yasufumi Nakamori, Education Lecturer, the Adult and Academic Programs, the Museum of Modern Art, New York / Ph.D. Candidate in the History of Art and Architecture, Cornell University

Politics of Art and Space: Yoshitaka Mouri, Associate Professor, Tokyo National University of Fine Arts and Music

Post-War Art History in Japan: Fumihiko Sumitomo, Curator, MOT and AIT

2007



MADとは

MAD(Making Art Different=アートを変えよう、アートを違った角度で見てみよう)は、特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト](以下エイト)が2001年に開講した、独自の講義と現場の議論を重視するエデュケーション・プログラムです。2007年度は、新たに導入した選択制講座や多彩なゲスト講師陣により、現代美術の多様さや複雑さをより深く広く読み解く、学際的で多視点的なプログラムを実現しています。開講される5つのコースにおいて、受講生は各コースの必修レクチャーのほかに、「フリー・ブロック」とよばれる選択講座から、指定された数の講座を選択することができます。また、2007年度から新しく特別講座を開講します。特定のテーマについて、専門的な知識を短期間で習得したい方を対象にしたコースです。

キュレーション

「キュレーション」という言葉を知っていますか？その語源は、一説にラテン語の「キュラーレ」に由来すると考えられ、「保護する」ということを意味します。美術館という制度が確立した19世紀には、美術品などを「保護すること」とそれに関連づけられる収蔵・陳列・展示などの作業の総称としてキュレーションと呼ばれるようになりました。

現在では、社会の変遷とともに「キュレーション」についての考え方も変化してきています。というのも、美術館においては、展覧会の企画と制作のみならず、教育普及プログラムやイベント開催、あるいはライブラリーや講堂、カフェなど付帯施設との連携プログラムの割合が増え、また美術館やギャラリーといった美術を専門的に扱う場所以外でも、例えば廃校、空き家、商店街、ストリートあるいはオフィスなどといった空間で展覧会が開かれるようになっています。

キュレーションは、単純に「集めた作品を見せる場」を設定することではなく、表現されたものがどのように社会と関連付けられ、また新たな意味が見出されるのかということをさまざまな方法を通して探る行為です。地域創造、格差社会、グローバリゼーションやポスト・コロニアル(植民地主義以降)、文化的アイデンティティの探求など、時代を彩る言葉が踊る現代において、時には複数の展覧会会場での展示とフォーラムの同時開催、時にはインターネット上でビデオアートのストリーミング、時にはストリートでのパフォーマンス、また時には廃校における一過性のイベントなど、その時に適した空間や方法を選択することによって、キュレーションは、より社会的インパクトの強いメッセージを発するものとなるでしょう。

MADのキュレーション・プラクティス(実践)、キュレーション・ベーシック(基礎)では、現代美術の表現とその成立背景である社会状況との関係性をふまえ、世界各地で起こっている議論を参考しながら、キュレーションの可能性を探ります。

キュレーション・コースでは、今年より、アジアン・カルチュラル・カウンシル(ACC)との協力プログラムを開始します(ACCは、アジアのアーティストおよび芸術分野の専門家を支援する米国の財団で、米国における調査、研究、視察、創作活動を行なうための個人助成を提供)。2007年には、福岡在住のキュレーター、遠藤水城が、米国のキュレーションについて調査するため、サンフランシスコおよびニューヨークに滞在予定です。キュレーション・コースの受講生は、米国滞在中の遠藤水城のプロジェクトに任意で参加することができます。

Curation Practice [New]

キュレーション・プラクティス(実践) 2007年4月開講 12ヶ月コース

キュレーション(展覧会の企画・制作)の歴史や理論、美術史や社会思想をふまえ、グループで展覧会の企画立案を行い、実現することを目的とするコース。テーマの設定、アーティストの選択から予算組み、運営まで、キュレーションに関するあらゆる作業を総合的に行う。

Curation Basic [New]

キュレーション・ベーシック(基礎) 2007年4月開講 12ヶ月コース

キュレーションの歴史や理論、美術史や社会思想など、今日の現代美術のキュレーションを支えている状況を理解した上で、キュレーションにおけるテーマや歴史、形式の可能性、あるいはアーティストの作品についての研究を行い、発表するコース。

Art+Communication [New]

アート+コミュニケーション 2007年4月「美術史編」、9月「公共と美術編」開講 各4ヶ月コース

前期の「美術史編」では、美術や美術史の基礎的な知識を身につけ、後期の「公共と美術編」では現代美術をより多くの人々と分かち合う方法について考えるコース。後期では、都内の美術機関へのフィールド・トリップも行う。「美術史編」のみ、「公共と美術編」のみ、あるいは両方の3パターンで受講可。

Artist

アーティスト 2007年4月、9月、2008年1月開講 各3ヶ月コース

「美術界」や「アーティストの自立的な活動」などについてのレクチャーと、キュレーターや美術評論家をゲストに迎えて行う模擬プレゼンテーションをとおし、作品の理論的バックアップやプレゼンテーションスキルを学ぶコース。

Magazine

マガジン 2007年4月、9月、2008年1月開講 各3ヶ月コース

海外のアート雑誌やウェブの英文記事を読みディスカッションを行うことで、世界各地で展開する現代美術の「いま」を読み解くコース。例として、Art Asia Pacific(アメリカ)/Art Forum(アメリカ)/Frieze(イギリス)/Contemporary(イギリス)などを講読。

Free Blocks

フリー・ブロック

フリー・ブロックは、MADの5つのコースに共通した選択講座。現代美術を理論的および実践的に考えてゆく上で重要となる専門的な研究やスキルを網羅的に取り上げる。受講生は、コースと期間に応じて科目を選択し、受講することができる。ただし、フリー・ブロックのみの受講は不可。

MAD特別講座 [New]

「ニュー・メディアとデジタルの政治学」、「写真と映像の歴史」、「建築と美術館」、「アートと空間の政治学」、「戦後の日本美術史」の5つのテーマについてそれぞれ4回の集中講義が行われる。

MAD 2007 概略図

5つのコースとフリー・ブロックが一目で見渡せる全体図

スタッフ／ゲスト・レクチャラー MAD2007を運営しているAITのスタッフ紹介と、ゲスト・レクチャラーのリスト

コース概要 MAD2007の各コースとMAD特別講座の概要

修了生の声 MADを修了した学生・社会人の今を紹介

キュレーション・プラクティス(実践)

キュレーション・プラクティス(実践)は、2007年4月から2008年3月にかけて開講されるコースで、キュレーションの歴史や理論、美術史や社会思想をふまえて、グループで展覧会を実現することを目的とするコースです。

このコースは主に、将来キュレーターとして現代美術の分野に専門的に携わりたい学生や社会人、様々な展覧会作りの現場に具体的に取り組もうとしている方、海外留学を考えている方、キュレーションに興味のあるアーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成

必修レクチャー:10回

フリー・ブロック:25回

チュートリアル(展覧会企画制作のためのワークショップ):10回

キュレーション・プラクティス(実践)・キュレーション・ベーシック(基礎) 共通 必修レクチャー

現代美術の分野で頻繁に話し合われる10のテーマに沿って行われます。美術を「美術」のみによって語るのではなく、現代社会や時代背景とともに考えてゆくための基礎となるレクチャーで、思想、哲学、社会学、美術館学など美術を取り巻く学問を手がかりに行われます。レクチャーはキュレーション・ベーシック(基礎)と合同で行われます。

○日本における現代の文化政策 住友文彦(東京都現代美術館 学芸員/AIT)/小澤慶介/ロジャー・マクドナルド

近年、政治学や歴史学など様々な分野によって再考される対象となっている美術館。指定管理者制度の導入などを例に、美術館の運営や芸術と社会の関係性のさまざまな問題に触れます。

○問われる美術館 南條史生(森美術館 館長)

良い美術館とは?近年のヨーロッパに見られる新しい美術館像、またアジアの美術館の未来などに言及しつつ、美術館という文化装置の変容を考えます。

○キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド/小澤慶介

スイス人キュレーター、ハラルド・ゼーマンなどが行なった展覧会を手がかりに、実験的なものから国際展まで、キュレーションの古今東西を幅広くマッピングします。

○アートと自律性 辻憲行(フリーランス・キュレーター)

政治学、自然科学、あるいはデザイン、ファッショントなどの諸領域とアートとの関係性をとおして、アートの自律性を考えます。

○展覧会の組み立て方と広報 小沢有子

展覧会の仕事、といっても具体的にはどのようなことがあるのでしょうか。実際に行われた展覧会を事例にしながら、企画だけではない展示、輸送、広報、資金調達などについて考えます。

○社会空間とキュレーション 小澤慶介

展覧会は必然的に「空間」を前提にしているとすると、その「空間」という概念はどのように理解されるのでしょうか。社会学や哲学、そして美術の実践を参照しながら、「空間」という概念に迫ります。

○キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド

展覧会という制度は、20世紀をとおしてどのように変化を遂げたのでしょうか。1793年のルーブル美術館の誕生から、現在の国際展まで、具体例を考察します。

○キュレーターに求められる資質 長谷川祐子(東京都現代美術館 学芸課長)

キュレーターは作品や美術史のことはもちろん、「現代美術」が表す同時代性に対しても洞察し、鋭く読み解く力が必要とされます。国際的な舞台で活動するキュレーターが語ります。

○インディペンデントなキュレーション 遠藤水城(フリーランス・キュレーター/rhythm 代表)

与えられた環境において、自分で企画を立て、資金を集め、会場を確保して展覧会を作るインディペンデント・キュレーターの仕事に迫ります。

○知識の生産と展覧会 小澤慶介/ロジャー・マクドナルド

さまざまな表現方法、価値観、言語が行き交う場であり、新たな知や誤解が生まれる文化装置としての展覧会、あるいは美術作品について考察します。

フリー・ブロック:必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心やグループでのキュレーションの方向性を深めるための専門的な講座です。キュレーション・プラクティスの受講生は25回のフリー・ブロックに参加することができます。テーマはP10-P12を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。

キュレーション・ベーシック(基礎)

キュレーション・ベーシック(基礎)は、2007年4月から2008年3月にかけて開講されるコースで、1年をかけてキュレーションの歴史や理論、美術史や社会思想など、今日の現代美術のキュレーションを支えている状況を理解した上で、過去現在を問わずアーティストや展覧会、アートの運動などから選んだ関心事について調べ、プレゼンテーションするコースです。

対象となる人は、キュレーションと社会の関係について時間をかけて考えてみたい方、あるいは海外留学を考えている方、キュレーションに興味のある社会人、学生、アーティストやアート・マネージャーなどが挙げられます。

コースの構成

必修レクチャー:10回

フリー・ブロック:20回

プレゼンテーション:3回

キュレーション・プラクティス(実践)・キュレーション・ベーシック(基礎) 共通 必修レクチャー

現代美術の分野で頻繁に話し合われる10のテーマに沿って行われます。美術を「美術」のみによって語るのではなく、現代社会や時代背景とともに考えてゆくための基礎となるレクチャーで、思想、哲学、社会学、美術館学など美術を取り巻く学問を手がかりに行われます。レクチャーはキュレーション・ベーシック(基礎)と合同で行われます。

○日本における現代の文化政策 住友文彦(東京都現代美術館 学芸員/AIT)/小澤慶介/ロジャー・マクドナルド

近年、政治学や歴史学など様々な分野によって再考される対象となっている美術館。指定管理者制度の導入などを例に、美術館の運営や芸術と社会の関係性のさまざまな問題に触れます。

○問われる美術館 南條史生(森美術館 館長)

良い美術館とは?近年のヨーロッパに見られる新しい美術館像、またアジアの美術館の未来などに言及しつつ、美術館という文化装置の変容を考えます。

○キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド/小澤慶介

スイス人キュレーター、ハラルド・ゼーマンなどが行なった展覧会を手がかりに、実験的なものから国際展まで、キュレーションの古今東西を幅広くマッピングします。

○アートと自律性 辻憲行(フリーランス・キュレーター)

政治学、自然科学、あるいはデザイン、ファッショントなどの諸領域とアートとの関係性をとおして、アートの自律性を考えます。

○展覧会の組み立て方と広報 小沢有子

展覧会の仕事、といっても具体的にはどのようなことがあるのでしょうか。実際に行われた展覧会を事例にしながら、企画だけではない展示、輸送、広報、資金調達などについて考えます。

○社会空間とキュレーション 小澤慶介

展覧会は必然的に「空間」を前提にしているとすると、その「空間」という概念はどのように理解されるのでしょうか。社会学や哲学、そして美術の実践を参照しながら、「空間」という概念に迫ります。

○キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド

展覧会という制度は、20世紀をとおしてどのように変化を遂げたのでしょうか。1793年のルーブル美術館の誕生から、現在の国際展まで、具体例を考察します。

○キュレーターに求められる資質 長谷川祐子(東京都現代美術館 学芸課長)

キュレーターは作品や美術史のことはもちろん、「現代美術」が表す同時代性に対しても洞察し、鋭く読み解く力が必要とされます。国際的な舞台で活動するキュレーターが語ります。

○インディペンデントなキュレーション 遠藤水城(フリーランス・キュレーター/rhythm 代表)

与えられた環境において、自分で企画を立て、資金を集め、会場を確保して展覧会を作るインディペンデント・キュレーターの仕事に迫ります。

○知識の生産と展覧会 小澤慶介/ロジャー・マクドナルド

さまざまな表現方法、価値観、言語が行き交う場であり、新たな知や誤解が生まれる文化装置としての展覧会、あるいは美術作品について考察します。

フリー・ブロック:必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心を深めるための専門的な講座です。キュレーション・ベーシックの受講生は20回のフリー・ブロックに参加することができます。テーマはP10-P12を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。

アート+コミュニケーション

「アート+コミュニケーション」は、2007年4月に美術史編、9月に公共と美術編、それぞれ4ヶ月のコースが開講されます。前期の「美術史編」では、絵画やインスタレーションなど現代美術の基礎知識を習得します。また、後期の「公共と美術編」では、「文化政策」や「地域」あるいは「教育」をキーワードに現代美術と社会のつながりについて具体的に考えることを目的としています。

美術史編、公共と美術編では必修レクチャーの内容が異なります。また通年で受講することにより、現代美術と社会の関わりがより体系的に習得できるようにプログラムされています。

このコースは主に、美術と社会をつなぐエデュケーターとしてアートに携わりたい学生や社会人、現代美術の歴史を学びたい方、自立的なアート活動などに関心がある方、アーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成

[前期]美術史編/[後期]公共と美術編

必修レクチャー:6回

フリー・ブロック:10回

アート+コミュニケーション 必修レクチャー+ワークショップ

前半(4月~7月)の必修レクチャーは、ペインティングや写真、インスタレーションなどのキーワードで、現代美術の基礎となる20世紀の美術史を概観します。後半(9月~12月)の必修レクチャーは、日本の文化政策や自立的なアート活動、またワークショップやボランティアによる教育プログラムを中心に行います。

[前期]美術史編

○現代美術とは何か? ロジャー・マクドナルド/小澤慶介

美術史や同時代に対する議論を参考しながら、「現代」とはどのような時代なのかということを読み解き、そこから美術の現代性を考えます。

○インスタレーション・アート ロジャー・マクドナルド

20世紀初頭のダダやシュルレアリストたちが行った展覧会から、1990年代に現れた「関係性の美学」によって取り上げられる参加型の作品まで、インスタレーション作品について考えます。

○20世紀の絵画 保坂健二朗(東京国立近代美術館 研究員)

絵画を理解するためには、フォーマリズムのみならず、物語や存在論など様々な概念を手にしなければなりません。セザンヌからリヒターを経て今に至るまでの絵画を通覧します。

○ビデオアートと視覚文化 小澤慶介

テレビなどのスペクタクルな映像メディアと比較しながら、実験的なものから映画あるいはMTVのようなものまで、時代とともに変容するビデオアートを考えます。

○建築からアートへ ロジャー・マクドナルド

20世紀における建築的な考え方やその運動は、今日の現代美術にも影響を与えたといわれています。また、その逆もしかりです。両者の関係と今後の展開を考察します。

○写真史 畠山直哉(写真家)

19世紀前半に生まれた写真を、それを成立させてきた社会との関係の中で語ることで、その表現手段がおのずと抱え込んでしまった可能性・不可能性に焦点を当てます。

[後期]美術と公共編

○日本の文化政策と美術 吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

近年の独立行政法人化法の施行、指定管理者制度の導入、NPO法の施行による、美術行政の可能性と問題点をふまえて、これからの中の美術を文化政策の面から考えます。

○地域を活性化するアート・プロジェクト 中村政人(美術家/東京藝術大学助教授)

人口の移動率や就業率、経済活動、地理、歴史など、地域や場のダイナミズムを取り入れた「地域とアートの関係」について考えます。

○美術界をマッピングする 小澤慶介

美術界では、どのような職の人々がどのように動いているのか。情報を整理してマッピングすることによって、美術を具体的に動かしている美術界の構造に迫ります。

○展覧会の物語化／脱一物語化 小澤慶介/ロジャー・マクドナルド

実際に開催されている展覧会を題材にとり上げ、それを一つの物語と見立て、読み解いてゆく方法をグループごとに考案します。

○パブリック・プログラム 東京都現代美術館の場合(ワークショップ) 武内厚子(東京都現代美術館 教育普及係 学芸員)

充実したパブリック・プログラムを展開している東京都現代美術館において、実際に行われている展示を題材にして、現代美術と来館者をつなぐプログラムを体験します。

○アートとコミュニティー 池田修(BankART1929 代表)

公設民営の新しい可能性を探るアートスペースとして定着してきたBankART。次から次へと生み出されるプログラムと場の連鎖について、それが実現する地域の意識に注目します。

アーティスト

「アーティスト」は、自立した活動を行うことを目指しているアーティストを対象にした3ヶ月のコースで、2007年4月、9月、2008年1月に開講されます。作品やプロジェクトを社会に出してゆくために必要となるスキルや考え方を6回の必修クラスをとおして習得します。美術は、アーティストによってのみ生み出されるものではなく、アーティストやギャラリスト、キュレーター、評論家、その他美術界に関係のある人々や企業、そして鑑賞者の関係が複雑に織り成す運動体と考えてみることができます。作品やプロジェクトを客観的に眺め、周囲の人々と自分の関心を共有するためのコミュニケーションを探る一連のプロセスを、キュレーターやアーティスト、受講生たちとの対話をつうじて組み立ててゆきます。このコースは主に、美術界について知識を得たい、自分の作品を客観的に見つめ直す機会を持ちたい、作品と社会の関係性を探りたい、海外の美術系大学への留学を考えているという方を対象としています。

コースの構成

必修クラス:6回

フリー・ブロック:2回

必修クラス

○美術界のマッピング：美術界の構造と人の動きについて概観し、受講生はディスカッションを通して各自の戦略を考えます。またプレゼンテーションのツールとなるファイルの作り方のアドバイスも行います。

○プレゼンテーション1：受講生各自、作品やプロジェクトについてプレゼンテーションを行います。表現方法やコンセプト、また美術史や社会との関係性について簡潔に伝えるスキルを身につけます。

○作品講評+セミナー1、2、3：作品について、コース・ディレクターが批評し、受講生同士の意見交換をします。また作品に関連する「絵画」、「映像」、「インスタレーション」などのテーマについてセミナーを開き、知識や意見を共有します。3回に分けて行うことにより、各受講生の活動や作品について十分な時間をかけて考察します。

○プレゼンテーション2：プレゼンテーション1で得られたアドバイスを踏まえつつ、キュレーターや美術評論家をゲストに招き、実践ながらのプレゼンテーションを行います。

過去のゲスト

最終回では、専門家に対する各自のプレゼンテーションを行います。これまでに以下の方々を招いて行われました。

飯田志保子氏(東京オペラシティーアートギャラリー キュレーター)／住友文彦氏(東京都現代美術館学芸員／AIT)

保坂健二朗氏(東京国立近代美術館 研究員)／森弘治氏(アーティスト)ほか

フリー・ブロック：アーティスト・コースの受講生は、コース中に開講しているフリー・ブロックから2つの講座を選択し参加することができます。テーマはP10-12を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。
※補講、フリー・ブロックの交換などはできません。

マガジン

「マガジン」は、世界の現代美術の「いま」を知るための3ヶ月のコースで、2007年4月、9月、2008年1月に開講されます。

日々刻々と変化する現代美術の世界。海外の美術雑誌には、話題になった美術館やギャラリーの展覧会のほか、オークションや国際展、あるいは最新のアートの動向などが紹介されています。また、近年の絵画や映像作品の傾向、さらにはファッショナブルな世界のアート、「注目のアーティストや新しい美術館の動き」、「話題となった展覧会」、「アート・マーケットの世界」などについて知識を得たい社会人、学生、アーティスト、コレクターを対象として、毎回海外の美術雑誌やウェブページから新鮮で有効な情報や視点を提供し、ディスカッションをとおして美術表現を多角的に読み解いてゆきます。

コースの構成

必修クラス:6回

フリー・ブロック:2回

雑誌の例

Art Asia Pacific(アメリカ)

Art Forum(アメリカ)

Art in America(アメリカ)

Frieze(イギリス)

Contemporary(イギリス)

Art Monthly(イギリス)

Art Newspaper(イギリス)

Tema Celeste(イタリア)

Parkett(スイス)

YISHU(中国)

Art in India(インド)など

フリー・ブロック：マガジンの受講生は、コース中に開講しているフリー・ブロックから2つの講座を選択し参加することができます。テーマはP10-12を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。
※補講、フリー・ブロックの交換などはできません。

フリー・ブロック MAD5コースに共通の選択講座 テーマ別一覧

テキストを読む

○クレア・ビショップ 「対立と関係性の美学」(4月25日／5月8日):ロジャー・マクドナルド

1990年代に活発化した「参加型」の作品を理論化して美術の枠組みに位置づけたニコラ・ブリオーの「関係性の美学」を批判的に読み解いた良文を紹介します。

○ジョルジオ・アガンベン 「例外状態」(5月17日／5月31日):小澤慶介

現代の世界は、「例外状態」であるというアガンベン。2007年の夏に行なわれる国際展、ドクメンタ12のテーマの一つにもなっている「剥き出しの生」と共に考えられる論考です。

○ミシェル・ド・セルトー 「日常的実践のポイエティック」(10月3日／10月16日):ロジャー・マクドナルド

日常生活においてささやかな抵抗運動を起こし、豊かな生活圈を作ることはできるでしょうか?セルトーのテキストを頼りに、社会から強いられている日常性を脱却する可能性を探ります。

○千葉成夫「未生の日本美術史」を読む(2008年2月20日／3月5日):住友文彦(東京都現代美術館 学芸員／AIT)／小澤慶介

「日本の美術史は未だ生まれていない」とする背景には、実際はどのような日本の戦後美術の歩みがあったのか。社会状況との関係で読み進めます。

アートと仕事

○美術界で仕事を始めるために(4月26日):永吉文子(SCAI THE BATHHOUSE)、西川美穂子(東京都現代美術館 学芸員)、橋本誠(アートプロデューサー／ライター)、柳下朋子(ARTiT 編集部)

美術に関係する仕事を始めたり、自ら作ってゆくにはどのようにしたらよいか。MADの修了生をゲストに迎え、美術界で活動するまでのプロセスと現在の仕事について話を聞きます。

○アーティスト・イン・レジデンスとコミュニティーとの関わり方について(9月15日):帆足亜紀(アーカスプロジェクト ディレクター)

日本におけるアーティスト・イン・レジデンス活動としては比較的早い時期の1995年に立ち上がった茨城県の文化事業、アーカス。アーティスト・イン・レジデンスと地域文化の変容との関わり方について考えます。

○美術のための仕組みを考える(2008年1月15日):小沢有子／宮原洋子(森美術館館長秘書)

NPOのディレクター、美術館の館長秘書という異なる立場から、それぞれの仕事を「編集」や「翻訳」などのキーワードに置き換えて、展覧会を作るだけではないさまざまな美術の仕事について考えます。

グローバル・スタディーズ

○記憶へのまなざし(5月16日):小澤慶介

国際展やドキュメンタリー映画祭などの現代の表象文化において、「記憶」をいかに倫理的に表すことが出来るのかという議論について、ドクメンタ11などを参照しながら考えます。

○クレオールについて(9月19日):小澤慶介

植民地主義時代に端を発し、文化の混成から立ち上がる異形な文化そのものを意味するようになったクレオール。ポスト・コロニアルな状況(植民地主義以後)における現代美術の表現を考えます。

○公共性とは何か?(11月13日):辻憲行(フリーランス・キュレーター)

常に倫理と政治の間で揺らいでいる「公共」という概念をどのように認識したらよいのか、また公共性と美術の関係についてどのように考えたらよいのかという問題に迫ります。

○沖縄と分裂する表象(2008年1月24日／2008年2月7日):小澤慶介

広告、テレビ番組、写真、映画、美術作品などで表象される「沖縄」は、それらの目的によって多岐にわたります。歴史的、地政学的に複雑な位置にある沖縄とその分裂する表象「沖縄」について考えます。

○都市神話崩壊以後の美術(2008年2月23日):北川フラム(大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 総合ディレクター)

現代美術は、都市以外の場においても、さまざまな意味を生成しながら豊かに展開されています。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を参照に、都市とアートの関係性について考えます。

美はどこへ行った?

○「美」はどこから来た?(6月5日):辻憲行(フリーランス・キュレーター)

「美」はどのように認識されるのか。古代ギリシアから近代までの美の学問的考察と芸術の関わりを概観します。

○「美」という装置(6月7日):辻憲行(フリーランス・キュレーター)

ドイツの哲学者であるカントは、「判断力批判」で普遍的な「美」を認識する人間の能力として「判断力」に注目しました。ここでは、美的判断を機械のような装置として捉え、その仕組みと芸術作品への適用について考察します。

○「美」の君臨?(11月14日):辻憲行(フリーランス・キュレーター)

現代の政治哲学や社会科学、あるいは自然科学などの分野においても「美」的な表現は多く見られます。このような状況を踏まえ、現代における「美」的表象について考えます。

タクティカル・キュレーション

○戦術の科学(6月19日):ロジャー・マクドナルド

社会におけるさまざまなコードをかいぐりながら、状況に合わせて効果的に表現活動を行うタクティカルなキュレーション。米軍の戦術の考え方を借りながらその可能性を考えます。

○カオスあるいはランダムなものとしてのキュレーション(6月20日):ロジャー・マクドナルド

過去には、美術館で行なわれながらも展覧会の既成概念を揺るがそうとした試みがありました。具体例を参照しながら、無秩序あるいはランダムな展示について考えます。

○都市空間を読む(10月20日):貝島桃代(建築家／アトリエ ワン)／ロジャー・マクドナルド

コードに満ち溢れた都市空間に対する見方をどのように解体し、使い手、あるいは地域特性の視点から再コード化できるのか。「交渉」や「余白」といったキーワードを軸に考えます。

○日常空間で展覧会を(12月11日):ロジャー・マクドナルド

新聞、雑誌、ポスター、Tシャツ、CD-Romなど、簡単に手に入るメディアを使用したり、ストリートあるいは街の施設などを使って、手早く作れる展覧会について具体例を挙げながら考えます。

○展覧会が作り出す環境(12月12日):ロジャー・マクドナルド

ダダやシュルレアリズムの運動、あるいは戦後のフルクサスなどパフォーマティヴな表現を参照しながら、一見美術とは無関係な場が展覧会に変容してゆくというアプローチでキュレーションを考えます。

○戦術的なアートのためのワークショップ—「公共」のコードを捉える(2008年2月9日):森弘治(アーティスト)

「公共」という空間意識を作り出すさまざまなコード(規則)を視覚化するとどうなるのか?ビデオカメラなど、身近で機動性の高い機材を使いながら、対象を撮り集め、ディスカッションを行います。

実践スキル

○企画書・プレスにおける文章表現と方法(7月5日):小沢有子／小澤慶介

秋口から年末にかけて募集される次年度のプロジェクトのための助成金あるいは協賛金の申請書や、展覧会の周知広報するプレス・リリースや書き方のポイントについて解説します。

○展覧会や作品の記録ワークショップ(7月14日):木奥恵三(フォトグラファー)

作品や展覧会の記録の方法について、森美術館や金沢21世紀美術館などでの現代美術の展覧会の記録写真撮影の実績から、基本的な考え方やアングルの取り方、照明に関する実用的な技術を教えます。

○デザインとコミュニケーション(11月1日):古平正義(アートディレクター)

展覧会の内容や経験を伝えつつ、手にとってもらい、さらに会場まで足を運んでもらうためのDMやポスターなどのメディア。効果的な周知広報や観客動員を可能にするデザインに迫ります。

○マネージメント、ファンダイレーティング(11月29日):小沢有子

展覧会、シンポジウムなど美術に関係する仕事においては、どのように予算立てをし、事業を管理運営してゆくのか。事業をおおして、社会的ネットワークを形成することも視野に入れながら考察します。

○展覧会評と批評の実践(2008年3月4日／3月13日):小澤慶介

美術史や哲学思想、あるいは現代社会の情勢と照らし合せることにより、展覧会や作品は一般化され、その同時代的な意義が深まることがあります。現代美術を読み解く実践的トレーニングです。

アートとマーケット

○アートフェア(10月30日):小澤慶介

美術界の一翼を担い、作品が流通する場として世界各地で開催されているアートフェア。世界最大のアートバーゼル(スイス)などを例に、アートフェアの機能とマーケットの形成について解説します。

○コマーシャル・ギャラリーの仕事(2008年2月21日):三瀬末雄(ミヅマアートギャラリー 代表)

ギャラリー・スペースでの作品展示・販売だけでなく、若手アーティストの育成から作品制作の補助、あるいはアートフェアへの出展まで多岐にわたるコマーシャル・ギャラリーの活動を紹介します。

MAD特別講座

MADでは、「ニュー・メディア」、「写真と映像の歴史」、「美術館と建築」、「社会学から見たアート」、「戦後の日本美術の歩み」の、5つのテーマについて、特別講座を開講します。各4回のレクチャーによって構成される講座で、レクチャーやディスカッションをとおして、特定のテーマについて集中的に知識を深めることができます。

○ニュー・メディアとデジタルの政治学

講師:ドミニク・チェン(日本学術振興会特別研究員[東京大学]／ICC研究員／Creative Commons Japan理事)

参加と共有というスキームが進化し続ける今日のネットワーク文化に見られるさまざまな問題を、現代美術の実践やインターネットにおける先進的なプロジェクトをとおして考察するとともに、それを可能にしている諸制度、そしてその更新作業について考察します。また、ネットワーク文化において、アートの価値はどのように位置づけられるのかという問題にも触れます。

○写真と映像の歴史

講師:杉田敦(美術批評家／女子美術大学助教授／オルタナティヴ・スペース art & river bank ディレクター)

写真と映像という、19世紀に誕生した2つのアートフォーム。写真は、当初は事実を記録するというゆるぎない機能を担いつつも、今日ではむしろ、操作可能なメディアとしての性質を露呈しつつあります。一方の映像は、誕生当初からエンターテイメントとしての可能性を追求しつくされてきましたが、今日、よりプリミティブな個人的物語に回帰しつつあります。21世紀も重要なアートフォームであり続けるであろうこれら2つのメディアの歴史を概観しつつ、その可能性と展開を探ります。

○建築と美術館

講師:中森康文(ニューヨーク近代美術館教育部講師／コーネル大学博士候補[美術・建築史])

「現代建築と美術館」では、この2、3年にオープンまたはリニューアルを行った日米の美術館、金沢21世紀美術館、ニューヨーク近代美術館、モルガン・ライブラリー(ニューヨーク市)などに焦点を当て、新たな美術館スペース及びそのアイデンティティと現代建築との関係を探ります。「美術館とは何か」、「美術を見せるスペースとは何か」そして「美術館と建築家の関係」などの質問を、ケース・スタディーを通して受講生と共に考えます。ニューヨーク近代美術館教育部講師でAITメンバーの中森康文が、一部のクラスで建築家をゲストに迎えてレクチャーを行います。

○アートと空間の政治学

講師:毛利嘉孝(東京藝術大学助教授)

グローバル化とともに全世界を席巻している新自由主義と表現活動との関係を「空間」という概念を通じて考えます。資本主義が圧倒的な価値体系を敷設しているようにみえるなか、対抗的な立場や異なった価値を提示してきた美術などの表現活動も、その波に飲み込まれてしまうのでしょうか。今日のアートと政治、経済、社会との関係を、空間を通じて思考したヴァルター・ベンヤミンのような思想家やシチュアショニスト・インターナショナルのような文化政治運動やアートの歴史を顧みながら迫ります。

○戦後の日本美術史

講師:住友文彦(東京都現代美術館学芸員／AIT)

戦後の日本美術の歩みを、復興期の前衛芸術をめぐるさまざまな運動から、前衛という概念が消失したと見られる70年代以降、90年代までたどります。他の産業や社会状況、あるいは思想などとの関連のなかで美術を捉えることにより、美術の同時代性に対する理解を促します。一般に、正史がないといわれている戦後の日本美術史ですが、多角的に検証することでそれを構成しているいくつかのラインを描きだします。

4月	5月	6月	7月
17日(火) 必修レクチャー1 日本における現代の文化政策 住友文彦／小澤慶介／ロジャー・マクドナルド キュレーション・プラクティス (実践)	15日(火) 必修レクチャー2 問われる美術館 南條史生 22日(火) 必修レクチャー3 キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 29日(火) チュートリアル1	12日(火) 必修レクチャー4 アートと自律性 辻憲行 26日(火) チュートリアル2	3日(火) 必修レクチャー5 展覧会の組み立て方と広報 小沢有子 17日(火) チュートリアル3
17日(火) 必修レクチャー1 日本における現代の文化政策 住友文彦／小澤慶介／ロジャー・マクドナルド キュレーション・ベーシック (基礎)	15日(火) 必修レクチャー2 問われる美術館 南條史生 22日(火) 必修レクチャー3 キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	12日(火) 必修レクチャー4 アートと自律性 辻憲行	3日(火) 必修レクチャー5 展覧会の組み立て方と広報 小沢有子 10日(火) プレゼンテーション1
19日(木) 必修レクチャー1 現代美術とは何か？ ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 アート＋コミュニケーション	10日(木) 必修レクチャー2 インスタレーション・アート ロジャー・マクドナルド 24日(木) 必修レクチャー3 20世紀の絵画 保坂健二朗	14日(木) 必修レクチャー4 ビデオアートと視覚文化 小澤慶介 28日(木) 必修レクチャー5 建築からアートへ ロジャー・マクドナルド	12日(木) 必修レクチャー6 写真史 畠山直哉
14日(土) 必修クラス1 美術界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 アーティスト	12日(土) 必修クラス3 インスタレーションについて考える＋作品講評2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 26日(土) 必修クラス4 写真・ビデオについて考える＋作品講評3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	9日(土) 必修クラス5 作品ドキュメンテーション ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 23日(土) 必修クラス6 プレゼンテーション ロジャー・マクドナルド／小澤慶介／ゲスト	11日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
18日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 マガジン	9日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 23日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	6日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 27日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	11日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
25日(水) テキストを読む1 クレア・ビショップ「対立と関係性の美学」 ロジャー・マクドナルド フリー・ブロック	8日(火) テキストを読む2 クレア・ビショップ「対立と関係性の美学」 ロジャー・マクドナルド 16日(水) アートと仕事1 美術界で仕事を始めるために 西川美穂子(MOT)、柳下朋子(ARTiT編集部) 永吉文子(SCAI)、 橋本誠(アートプロデューサー／ライター)	5日(火) 美はどこへ行った？1 「美」はどこから来た？ 辻憲行 7日(木) 美はどこへ行った？2 「美」という装置 辻憲行 19日(火) タクティカル・キュレーション1 戦術の科学 ロジャー・マクドナルド	5日(木) 実践スキル1 企画書・プレスにおける文章表現と方法 小沢有子、小澤慶介 14日(土) 実践スキル2 展覧会や作品の記録ワークショップ 木奥恵三
31日(木) テキストを読む4 ジョルジオ・アガンベン「例外状態」 小澤慶介	17日(木) テキストを読む3 ジョルジオ・アガンベン「例外状態」 小澤慶介 20日(水) タクティカル・キュレーション2 カオスあるいはランダムなものとしてのキュレーティング ロジャー・マクドナルド		

	9月	10月	11月	12月
キュレーション・プラクティス (実践)	18日(火) チュートリアル4 25日(火) 必修レクチャー6 社会空間とキュレーション 小澤慶介	9日(火) 必修レクチャー7 キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド 23日(火) チュートリアル5	6日(火) 必修レクチャー8 キュレーターに求められる資質 長谷川祐子 20日(火) チュートリアル6	18日(火) チュートリアル7
キュレーション・ベーシック (基礎)	25日(火) 必修レクチャー6 社会空間とキュレーション 小澤慶介	9日(火) 必修レクチャー7 キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド	6日(火) 必修レクチャー8 キュレーターに求められる資質 長谷川祐子	4日(火) プレゼンテーション2
アート+コミュニケーション	27日(木) 必修レクチャー7 日本の文化政策と美術 吉本光宏	11日(木) 必修レクチャー8 地域を活性化するアート・プロジェクト 中村政人	8日(木) 必修レクチャー10 展覧会の物語化／脱-物語化 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	6日(木) 必修レクチャー12 アートとコミュニティー 池田修
アーティスト	29日(土) 必修クラス1 美術界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	13日(土) 必修クラス2 平面について考える＋作品講評1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	17日(土) 必修レクチャー11-1 パブリック・プログラム：東京都現代美術館の場合 武内厚子	8日(土) 必修クラス6 プレゼンテーション ロジャー・マクドナルド／小澤慶介／ゲスト
マガジン	26日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	10日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	24日(土) 必修クラス5 作品ドキュメンテーション ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	5日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
帆足亜紀	15日(土) アートと仕事2 アーティスト・イン・レジデンスと コミュニティーとの関わりについて	3日(水) テキストを読む5 ミシェル・ド・セルト「日常的実践のポエティック」 ロジャー・マクドナルド	21日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	11日(火) タクティカル・キュレーション4 日常空間で展覧会を ロジャー・マクドナルド
フリー・ブロック	19日(水) グローバル・スタディーズ2 クレオールについて 小澤慶介	16日(火) テキストを読む6 ミシェル・ド・セルト「日常的実践のポエティック」 ロジャー・マクドナルド	13日(火) グローバル・スタディーズ3 公共性とは何か？ 辻憲行	12日(水) タクティカル・キュレーション5 展覧会が作り出す環境 ロジャー・マクドナルド
	20日(土) タクティカル・キュレーション3 都市空間を読む 貝島桃代(アトリエ・ワン)	14日(水) 美はどこへ行った？3 「美」の君臨？ 辻憲行	29日(木) 実践スキル4 マネージメント、ファンドレイジング 小沢有子	
	30日(火) アートとマーケット1 アートフェア 小澤慶介			

	2008年1月	2008年2月	2008年3月
キュレーション・プラクティス(実践)	22(火) チュートリアル8	19(火) チュートリアル9	18(火) チュートリアル10
キュレーション・ベーシック(基礎)	29(火) 必修レクチャー9 インディペンデントなキュレーション 遠藤水城	26(火) 必修レクチャー10 知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	11(火) プレゼンテーション3
アーティスト	29(火) 必修レクチャー9 インディペンデントなキュレーション 遠藤水城	26(火) 必修レクチャー10 知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	1(土) 必修クラス4 写真・ビデオについて考える+作品講評3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
マガジン	19(土) 必修クラス1 美術界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	2(土) 必修クラス2 平面について考える+作品講評1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	15(土) 必修クラス5 作品ドキュメンテーション ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
フリー・ブロック	16(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	13(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	29(土) 必修クラス6 プレゼンテーション ロジャー・マクドナルド／小澤慶介／ゲスト
	30(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	27(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	12(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
	15(火) アートと仕事3 美術のための仕組みを考える 小沢有子／宮原洋子	7(木) グローバル・スタディーズ5 沖縄と分裂する表象2 小澤慶介	4(火) 実践スキル5 展覧会評と批評の実践 小澤慶介
	24(木) グローバル・スタディーズ4 沖縄と分裂する表象1 小澤慶介	9(土) タクティカル・キュレーション6 戦闘的なアートのためのワークショップ—「公共」のコードを捉える 森弘治	5(水) テキストを読む8 千葉成夫「未生の美術」を読む 住友文彦／小澤慶介
		20(水) テキストを読む7 千葉成夫「未生の美術」を読む 住友文彦／小澤慶介	13(木) 実践スキル6 展覧会評と批評の実践 小澤慶介
		21(木) アートとマーケット2 コマーシャル・ギャラリーの仕事 三瀬末雄	
		23(土) グローバル・スタディーズ6 都市神話崩壊以後の美術 北川フラン	

スタッフ

ロジャー・マクドナルド[コース・ディレクター]

1971年生まれ。イギリスのケント大学にて宗教修習課程修了後、美術理論にて博士号を取得。1998年より、インディペンデント・キュレーターとして、国内外で数々の小規模な展覧会を企画。また、「横浜トリエンナーレ2001」では、南條史生氏のアシスタント・キュレーターとして活動。興味の対象は幅広く、キュレーションの歴史、特権的なアートスペース以外で行われるインディペンデントなキュレーションの可能性の研究のほか、キュレーションと社会政治研究のための個人的なアーカイブ作りに取り組む。低予算で社会に介入してゆくインディペンデントな動き「タクティカル・キュレーティング(tactical curating)」を調査するウェブログ「タクティカル・ミュージアム(The Tactical Museum)」を主宰している。<http://www.rogerme.blogs.com/tactical/>

2006年「シンガポール・ビエンナーレ2006」キュレーター。武蔵野美術大学非常勤講師。多摩美術大学非常勤講師。

小澤慶介[コース・ディレクター]

1971年生まれ。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて美術史の修士号を取得。これまでに、世界化する社会のさまざまな問題にアプローチしたビデオアートのグループ展「your memorabilia 記憶へのまなざし」(東京国際フォーラム/2003)、「paradise views 楽園の果て」(東京国際フォーラム/2004)、「dreaming bodies 夢みる身体」(アサヒ・アートスクエア/2005)を企画。また、「借景」展(東京日仏学院/2004)や「at/@小平でのマッピングプロジェクト」(白矢アートスペース/2006)など、特定の場や地域と展覧会の関係性を心理地理学的に考察するキュレーションも行う。消えてゆく文化や複数の文化の混成により成り立つ異形の文化など、後期近代あるいはポスト・コロニアルな時代における文化の様態とその表象に关心がある。アートフェア東京アソシエイト・ディレクター。明星大学非常勤講師。慶應義塾大学非常勤講師。

住友文彦[レクチャラー]

1971年生まれ。東京都現代美術館学芸員。東京大学大学院総合文化研究科表象文化論コース修了。韓国、中国、日本のアーティストが参加した「アウト・ザ・ウインドウ」展(国際交流基金アジアセンター/東京/2004)、戦後の美術から最新の動向までを取り組みを取り上げた「Possible Futures: アート&テクノロジー過去と未来」展(ICC/東京/2005)、2006年には「Rapt!:20 contemporary artists from Japan」展(国際交流基金)をオーストラリアでおこなう。リクリット・ティラヴァニアに関する「身体の贈与」(共著『表象のディスクール6 創造』、東京大学出版会、2000年)、「映像の中へ」(『21世紀の出会いー共鳴、ここから』、金沢21世紀美術館、淡交社、2004年)、「複雑で便利な時代と見えなくなるアート」(共著『21世紀における芸術の役割』未来社、2006年)などの論考がある。武蔵野美術大学非常勤講師。

中森康文[レクチャラー]

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、米国ウィスコンシン大学ロースクール卒業(法律博士)。現在米国コーネル大学美術史博士候補(博士課程前期終了)。インディペンデント・キュレーター、近代・現代美術史教育家、及びニューヨーク州弁護士。ニューヨーク市を基点として、現代美術及び文化、政治に焦点を充てた展覧会を企画。畠山直哉、石川真生それぞれの米国における初個展を企画する。2002~3年には、ホイットニー美術館アシスタント・キュレーターとして、「American Effect」展をはじめとする現代美術展覧会及びサウンド・イベントを企画協力する。20世紀建築史、写真史及び関連する近代・現代思想史を専門とし、現在ニューヨーク近代美術館教育部の講師として、成人教育プログラムの作成及び実施に従事する。著作には、日本現代美術に関するものに加えて、著作権と現代美術に関するものがありその幅が広い。

小沢有子[マネージング・ディレクター、レクチャラー]

学習院大学法学部政治学科卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナンジョウアンドアソシエイツにて「イタリア現代美術1945-1995」展、「大林組コーポレートアートプロジェクト」、「サンパウロビエンナーレ2002」など国内外の展覧会やアート・プロジェクトのコーディネート、コンサルタント、マネージメントを担当。2002年、仲間と共にNPO法人アーツイニシアティヴトウキョウを立ち上げ、代表に就任。AITでは、レジデンスとMADを中心とした活動全体の企画やマネージメントに携わり、芸術文化に関わる基盤作りや、アーティスト支援に取り組む。MADでは、こうした経験をふまえ、マネージメントや組織運営に関する講義を行う。東京藝術大学非常勤講師。

肥田暁子[スタッフ]

学習院大学文学部哲学科美学美術史専攻卒業。1998-99年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジに留学。2003年MADのキュレーションコース修了後、AITのスタッフに加わる。これまでに「アート・スコープ」展(原美術館/2004、2005、2006年)や「パブリックリー・スピーキング」展(トーキョーワンダーサイト渋谷/2005年)、シンガポール・ビエンナーレ2006日本事務局(2006年)など、様々なプロジェクトのコーディネーションに携わる。

宮原洋子[サポート]

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史専攻卒業。1995-2002年ナンジョウアンドアソシエイツにおいて、国際美術評論家連盟(AICA)日本大会事務局、「横浜トリエンナーレ2001」における120名余の制作ボランティアのコーディネート、MADの立ち上げ等に携わる。2002年開館準備段階より森美術館に勤務。南條史生館長の秘書として現在に至る。

MAD 2007 ゲスト・レクチャラー

池田修(BankART1929 代表)

遠藤水城(フリーランス・キュレーター/rhythm 代表)

貝島桃代(建築家/アトリエ ワン)

木奥恵三(フォトグラファー)

古平正義(アートディレクター)

北川フラム(大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 総合ディレクター)

武内厚子(東京都現代美術館 教育普及係 学芸員)

辻憲行(フリーランス・キュレーター)

中村政人(美術家/東京藝術大学助教授)

永吉文子(SCAI THE BATHHOUSE)

南條史生(森美術館 館長)

西川美穂子(東京都現代美術館 学芸員)

橋本誠(アートプロデューサー/ライター)

長谷川祐子(東京都現代美術館 学芸課長)

畠山直哉(写真家)

帆足亜紀(アーカスプロジェクト ディレクター)

保坂健二朗(東京国立近代美術館 研究員)

三浦末雄(ミヅマアートギャラリー 代表)

森弘治(アーティスト)

柳下朋子(ARTiT 編集部)

吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

Special Lectures Guest Lecturers

特別講座 ゲスト・レクチャラー

ドミニク・チェン(日本学術振興会特別研究員[東京大学]/ICC研究員/Creative Commons Japan理事)

杉田敦(美術批評家/女子美術大学助教授/オルタナティヴ・スペース art & river bank ディレクター)

毛利嘉孝(東京藝術大学助教授)

コース概要

キュレーション・プラクティス(実践)[12ヶ月]

期間 2007年4月17日(火)～2008年3月18日(火)

フリー・ブロック 25回(選択制)

時間 19:00～21:00

場所 AITルーム(代官山)

定員 12人

費用 229,950円(税込)[受講料200,000円+施設維持費2,000円+資料費15,000円+選考費2,000円]

受講資格 申込書とインタビューによる選考あり。

キュレーション・ベーシック(基礎)[12ヶ月]

期間 2007年4月17日(火)～2008年3月11日(火)

フリー・ブロック 20回(選択制)

時間 19:00～21:00

場所 AITルーム(代官山)

定員 20人

費用 201,600円(税込)[受講料180,000円+施設維持費2,000円+資料費10,000円]

受講資格 特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、選考あり。

アート＋コミュニケーション[前期:4ヶ月／後期:4ヶ月]

期間 前期:2007年4月19日(木)～2007年7月12日(木)

後期:2007年9月27日(木)～2007年12月6日(木)

フリー・ブロック:前期、後期の各10回(選択制)

時間 19:00～21:00

場所 AITルーム(代官山)

定員 (前期、後期の各回)20人

費用 79,800円(税込)[受講料74,000円+施設維持費2,000円]〈各回〉

受講資格 特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、選考あり。

アーティスト[3ヶ月]

期間 春2007年4月14日(土)～2007年6月23日(土) 第2・4 土曜日

秋2007年9月29日(土)～2007年12月8日(土) 第2・4・5 土曜日

冬2008年1月19日(土)～2008年3月29日(土) 第1・3・5 土曜日

フリー・ブロック:各回2回(選択制)

時間 14:00～16:00

場所 AITルーム(代官山)

定員 各回12人

費用 38,850円(税込)[受講料35,000円+施設維持費2,000円]

受講資格 特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、インタビューによる選考あり。

マガジン[3ヶ月]

期間 春2007年4月18日(水)～2007年7月11日(水)

秋2007年9月26日(水)～2007年12月5日(水) 隔週水曜日

冬2008年1月16日(水)～2008年3月26日(水) 隔週水曜日

フリー・ブロック:各回2回(選択制)

時間 19:00～21:00

場所 AITルーム(代官山)

定員 各回12人

費用 36,750円(税込)[受講料33,000円+施設維持費2,000円]

受講資格 特になし。ただし、定員を超える場合選考あり。

特別講座[4日間]

[1]「ニュー・メディアとデジタルの政治学」レクチャラー:ドミニク・チェン(日本学術振興会特別研究員〔東京大学〕/ICC研究員/Creative Commons Japan理事)

期間 2007年5月11日(金)、12日(土)、18日(金)、19日(土)の4日間

時間 19:00～21:00[5月11日(金)、18日(金)]、17:00～19:00[5月12日(土)]、14:00～16:00[5月19日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 18人

費用 23,100円(税込)[受講料20,000円+施設維持費2,000円]

受講資格 特になし。

[2]「写真と映像の歴史」レクチャラー:杉田敦(美術批評家/女子美術大学助教授/オルタナティヴ・スペース art & river bank ディレクター)

期間 2007年6月29日(金)、30日(土)、7月6日(金)、7日(土)の4日間

時間 19:00～21:00[6月29日(金)、7月6日(金)]、14:00～16:00[6月30日(土)、7月7日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 18人

費用 23,100円(税込)[受講料20,000円+施設維持費2,000円]

受講資格 特になし。

[3]「建築と美術館」レクチャラー:中森康文(ニューヨーク近代美術館教育部講師/コーネル大学博士候補[美術・建築史])

期間 2007年8月24日(金)、8月25日(土)、8月31日(金)、9月1日(土)の4日間

時間 19:00～21:00[8月24日(金)、8月31日(金)]、14:00～16:00[8月25日(土)、9月1日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 18人

費用 23,100円(税込)[受講料20,000円+施設維持費2,000円]

受講資格 特になし。

[4]「アートと空間の政治学」レクチャラー:毛利嘉孝(東京藝術大学助教授)

期間 2007年9月21日(金)、22日(土)、10月5日(金)、6日(土)の4日間

時間 19:00～21:00[9月21日(金)、10月5日(金)]、14:00～16:00[9月22日(土)、10月6日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 18人

費用 23,100円(税込)[受講料20,000円+施設維持費2,000円]

受講資格 特になし。

[5]「戦後の日本美術史」レクチャラー:住友文彦(東京都現代美術館 学芸員/AIT)

期間 2007年10月26日(金)、27日(土)、11月2日(金)、3日(土)の4日間

時間 19:00～21:00[10月26日(金)、11月2日(金)]、14:00～16:00[10月27日(土)、11月3日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 18人

費用 23,100円(税込)[受講料20,000円+施設維持費2,000円]

受講資格 特になし。

講義内容と日程は、変更される場合があります。その場合は事前に告知されます。原則として、申し込みが受理された後のキャンセル・返金は受け付けません。定員に達した場合はお断りする場合があります。

お申し込み方法

AITのホームページよりお申し込みいただくか、下記問い合わせ先まで、お名前、ご住所、ご連絡先(電話、ファックス、携帯電話など)を明記の上、メールにて申込書をご請求ください。各コースの受講生募集期間と地図は、ホームページをご参照ください。

なお、MAD OPEN DAY(MADのコースについての説明会)を以下の日程で開催予定です。お申し込み希望の方は、件名を「MADオープンデーター参加希望」とし、住所、氏名、電話番号、興味のあるコース名を明記したメールを、office@a-i-t.netまでお送りください。

MAD OPEN DAY

<2007年度全コース説明会>

2007年1月20日(土)13:00～14:30／2007年2月9日(金)19:00～20:30／2007年3月2日(金)19:00～20:30

<2007年度秋・冬コース説明会>

秋コース説明会 2007年7月13日(金)／8月31日(金)19:00～20:30

冬コース説明会 11月30日(金)19:00～20:30

問い合わせ先

特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-3 ツインビル代官山A502

Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266 E-mail: office@a-i-t.net <http://www.a-i-t.net>

30代／男性 2002年アーティスト
受講時：アーティスト

現在：アーティスト
留学先のオランダから帰国して2年、なんとなく創作活動をしていた自分に、アートは単なる自己表現ではなく、社会と密接に関わっているという事実を改めて教えてくれました。

40代／男性 2003年アーティスト
受講時：現代美術家

現在：現代美術家
福岡県の北九州市から東京へ3ヶ月間通うのは大変でしたが、人と人との関係で展示会や美術が出来ていくという重要な事実に気付くことができ、価値ある時間を過ごせました。

40代／男性 2004年アーティスト、2005年キュレーション+アート・ヒストリー
受講時：会社員

現在：会社員
MADで、アート界の全体像を俯瞰したことで、作家として活動する自分の居場所を確認することができました。

20代／女性 2002年キュレーション
受講時：学生

現在：コロンビア大学アーツ・アドミニストレーション修士課程在籍
MADの受講をきっかけに、さまざまな人に会う機会が飛躍的に増えました。東京やニューヨークの美術館でアルバイトやインターンなどをする機会に恵まれたのも、MADのお陰でした。

20代／女性 2003年、2004年マガジン、2004年キュレーション・インテンシブ
受講時：会社員

現在：エジンバラ芸術大学アートプロジェクト・コーディネーター
小さな教室で行われるインターナショナルなアートの授業は、私をUKへの留学、そして、今もアートに向かわせてくれる大きなきっかけとなりました。

20代／女性 2004年サマー・コース
受講時：学生

現在：unitednationsplaza在籍
日本の大学で正規の美術教育を受けたことのなかった私にとって、3日間のMADサマー・コースは「現代美術」を初めて学んだ時間であり、イギリスで本格的に美術理論を学ぶステップになりました。

20代／男性 2004年キュレーション、2004年・2006年クリティカル・リーダーズ
受講時：会社員

現在：Tokyo Art Beat共同設立者 <http://www.tokyoartbeat.com/>
サラリーマンのスケジュールに合った形で、コンテンポラリーアートについて、先生と生徒という旧来の枠組みではなく、もう少しフラットな関係の中で、「学ぶ」というよりも「創り出していく」という姿勢を身につけることができた。

30代／女性 2002年キュレーション
受講時：学生

現在：東京都現代美術館 学芸員
授業では毎回、知的興奮で脳が発火しているかのようになった。私にとって何ものにもかえがたいのは、MADで学び、そこでさまざまな人に出会ったことで、アートに対してポジティブな信念を持つことができるようになったことである。

20代／女性 2001年キュレーション
受講時：学生

現在：「ART iT」編集部 編集アシスタント
美大で油絵を学びながら自分の将来像を模索していたとき、MADを知りました。様々なゲストの話や、クラスを越えて設けられた交流の場などから毎回良い刺激を受け、「つくる」「見る」だけではない作品へのアプローチに興味を持つようになりました。

20代／男性 2004年キュレーション
受講時：アルバイト

現在：アートプロデューサー／ライター
MADの授業で、型にはまらない様々なキュレーションの事例に触れることができたことは、受身でなく自ら仕事をつくり出す努力をしたり、小規模・趣味的でも面白いプロジェクトを行っていくという現在の自分のスタイルにつながっていると思う。

30代／女性 2003年キュレーション
受講時：アルバイト

現在：SCAI／白石コンテンポラリーアート
ギャラリースタッフとして、今の自分の立ち位置から何かクリエイティブにおもしろいことはできないかという思いを持って仕事を楽しむことができるのは、MADで培った、「アートを通して社会と主体的に関わるというスタンス」と、さまざまなネットワークおかげだと思います。

20代／女性 2004年キュレーション・インテンシブ
受講時：会社員

現在：BankART1929スタッフ
MADの授業で行ったグループワークショップで、メンバーと意見交換を行いながら完成させた経験から、仕事は一人で完結するのではなく、多くの人と連携し巻き込んでいくことで、広がりや奥行きが生まれるということを学びました。

30代／女性 2003年マガジン、2004年キュレーション・インテンシブ
受講時：アルバイト

現在：ナンジョウアンドアソシエイツ
マガジンコースではアートシーンの全体像を、キュレーション・インテンシブコースでは自分がアートと主体的に関わることを学び、様々な視点でアートを捉える良い機会になりました。

50代／女性 2005年オーディエンス
受講時：自由業

現在：自由業
MADには、側に感想を語り合える仲間も、すぐに質問できるディレクターもいるしで、ありがたいこと、この上なし…。おかげさまで、難解と言うより、とっつきにくい感のある現代美術が、身近な存在になりました。

40代／男性 2005年サマー・コース、2005年マガジン
受講時：会社員

現在：会社員
MADサマー・コースで、写真に関する文献を読み、畠山直哉さんのレクチャーを聴講したことは、私が趣味で写真作品を購入するときの参考になっています。

MAD受講生のデータ

学生／学生以外の比率：学生 30%、学生以外 70%

年齢層：19才～82才まで

学生：青山学院大学、お茶の水女子大学、学習院大学、慶應義塾大学、大学院、埼玉大学、上智大学、女子美術大学、東京大学、東京外国语大学、大学院、東京藝術大学、東京工芸大学、法政大学、武蔵野美術大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学他

職種：銀行、証券、保険、金融、シンクタンク、建築、デザイン、服飾、広告、美術、出版、印刷、食品等